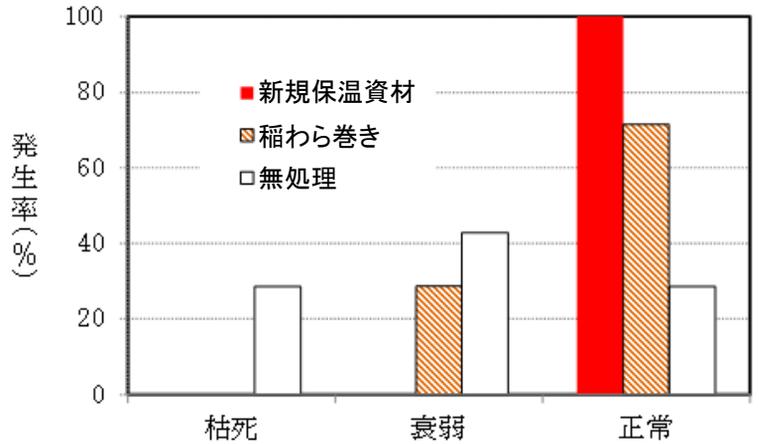


# 果樹の凍害を防ぐ新しい保温資材を開発しました



新しい保温資材を主幹部に巻いたモモ樹



新しい保温資材のモモの凍害に対する防止効果

## 開発のねらい

近年、春先にモモの若木の衰弱・枯死が増加しており、原因は、暖冬で樹液流動が早まった後の寒の戻りによる凍害と考えられています。そこで、凍害防止対策として、低コストで、巻き付け作業がしやすい、新しい保温資材を開発しました。

## 新技術の概要

- 新しい保温資材は、長い袋状に加工した透湿性防水シートにヒノキのプレーナー（かな）屑を充填したものです。
- この保温資材を主幹部に巻き付けると、冬期の樹の表面温度は、最低が4～5℃高く、最高が9～10℃低くなり、日較差が大幅に小さくなります。
- 保温資材の巻き付け期間は1月～4月とし、他の期間は屋内で保存すれば、約3年間使用できます。
- 新しい保温資材は、稲わらに比べて持ち運びやすく、作業時間が約3割削減でき、作業時のかゆみもありません。

## 活用場面

若木の凍害防止により「岡山白桃」の販売量増加が期待できると共に、農家経営も改善されます。現在、市販化に向けてメーカーとの協議を進めています。

果樹研究室